



年頭に当たって

当社 取締役社長 上杉 登

新年明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年を迎えられことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年の三菱商事アグリサービスは、山森前常務のエムシー・ファーターコム(株)取締役社長への栄転、後任として高橋常務を三菱商事肥料ユニットから招聘、札幌・東京・名古屋支店長の交代、東京支店と事業開発室で構成する東京事業部の創設など等大幅な人事異動、組織の部分的な改編などを断行しましたが、皆様の心温まるご理解とご協力もあり、お陰さまで滞りなく業務を遂行することが出来ました。皆様に改めまして感謝を申し上げます。

今年は私どもにとりまして、大きな節目の年となります。2月には本店事務所を、現在の文京区湯島から千代田区麹町に移転し、エムシー・ファーターコム(株)と同じ麹町広洋ビルの1階に居を構えます。同社との連携を深め、お客様へのサービスの充実を図る所存です。10月には3年ごとの全国菱肥会総会を経団連ホールにおいて催し、今後3年間の行動目標を決議致します。TPP問題で改めて脚光を浴びました農業構造改革は、肥料業の変革を伴うことが予想されますが、皆様と共に潮目を確りと捉え肥料業の継続的な発展に向けて邁進する所存です。今年も引き続きのご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

さて、今年は干支では辛卯（かのとう）となります。干支の言い伝えでは、“しんぼう”とも読み“辛抱”を意味します。歴史的事実として、中国 清王朝の滅亡の切っ掛けとなった辛亥革命が起きております。卯は“門を開く”ことを意味します。辛抱を覚悟していると蓄積されてきた改革のエネルギーが爆発し、今までの枠組みを壊し新しい門が開き、まさに“門戸開放”となります。

日本の農業が抱えている課題の多くは、かねてより農業界ばかりでなく、経済界を巻き込み課題解決の為の議論を重ねて参りました。その都度、時の政権により軟着陸を図る政策が取られましたが、残念ながら根本的な解決には程遠く、日本市場を基盤に世界の舞台で活躍する民間企業の事業活動にも影響を及ぼしております。農業は国家百年の計で政策決定をすべき案件と言われておりますが、今まさに今後100年後の日本の為にも自由闊達な農業を実現すべきと思うところです。

私どもが生活している肥料業は、自由闊達な農業となる新農業時代で明るく、将来に向けて、躍動することは間違いないと信じておりますが、その実現には次の3つの指針に基づく日々の活動が必要とされていると思うところです。

【質の高い肥料販売】

農業の出口となる食品業界は、既に消費者の購買動向に沿い事業を展開しております。消費者が何を、何時、どの位(量)必要としているか、値ごろ感、消費動向の変化は など等の消費者のニーズを日々調査しながら農産物を買ひ、加工し、宣伝を打ち 消費者に商品価値をアピールしております。消費者の購買の選択は、今や、米屋、八百屋、果物屋、スーパー、コンビニ、デパ地下、直売所、通販と多種多様です。農産物流通も市場経由に加え農場から直接購買する形態が拡大し、また加速しております。農場と消費者の距離は明らかに短くなってきており、消費者のニーズを農場の栽培に反映させることが求められております。農産物の安定供給に加え、食味、安全性、鮮度、栄養価などの

(次ページへ続く)



(前ページより続く)

ニーズにも対応した農業者が成功の道を歩んでおります。結果として、農業生産法人化、規模拡大、生産コスト削減、新たな農業技術の導入、JGAP農場化、農場での1次加工、差別化を図る精米設備等に取り組む農業者が急増しております。私ども肥料業に携わっているものも、これら農業者のニーズに対応していくことが事業継続の前提条件となる日も遠くありません。肥料の安定供給、農業技術の提供に加え、新たな栽培管理・農場管理手法の指導、農産物流通情報、農業金融情報の提供、農業経営の相談等の機能を備えることが必要となると思います。質の高い肥料販売の実現こそ、私どもの事業目標となります。

【次世代の農業プロの育成】

今日の農業は農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増大などの大きな課題を抱えておりますが、将来の課題は農業生産に最も適している美田を如何に確保し、生産効率を上げる事と言われております。1農家が農業で儲かる規模は稲作で10ha、野菜で5ha、農産物の1次加工にまで進出する場合には、50ha以上の規模を必要との試算がありますが、将来の大きな課題の一つに、農業付加価値化に要する多様な生産工程をこなすプロフェッショナルな人材不足があります。栽培管理、農場管理、土づくり、防除、食の安全指導、農産物1次加工、農業経営等を体系的に学習し実践体験ができる機会がないのも事実です。昨今、この分野において、幾つかの企業がセミナーを開催しております。日経BP、野村證券、ナチュラルアートなどです。これらに共通する仕組みは大学、専門学校と異なり、第一線で活躍しておられる方々を講師として招聘されていることです。このような機会を活用し、質の高い農業を目指す方々との連携を図ることも、私どもの事業目標となります。

【異業種との事業連携】

農業の規模拡大を目指しておられる農業者の方々のお話を聞きますと、地域独特の風習や不完全な制度等から必ずしも容易ではなく、土壌改良を要する耕作放棄地を対象とするしかないケースが多いようです。これらの問題は、今年6月に発表されます新たな農業基本方針によって大きな改善がみられると期待しております。一方、水管理を含めた農地整備は地域行政と地域農業者との連携を必要とするものであります。地域農業活性化の基盤となるテーマに、農業6次産業化(農商工連携)があります。地域経済は農業を基盤としているところが多く、農業の産業化を目指して、農業者、商工業者が連携をすることを意味します。静岡県のある地域では商工会議所内に農業部を創設して農業者との連携を地域全体で促進する動きも始まりました。地域の大学との連携によって農産物1次加工において革新的な試みもされております。静岡県はお茶の輸出でも先陣を切っておりますが、農産物輸出において富士山静岡空港の活用なども視野に入ってくるものと期待をしているところです。農業6次産業化は、農商工連携事業がそうであるように、民間が主体となり促進するものであります。消費者のニーズにあう新たな食品(含む農産物)作りは地域のモチベーション向上に間違いなく繋がります。競争力のある食品づくりには適切な農業技術導入と共に食品のマーケティングも必要となります。肥料需要拡大にも繋がる農業規模拡大、農業技術の駆使による良質な競争力ある食品づくり、消費者の心をつかむマーケティングは一つに繋がっております。その為に、同業者に加え異業種との事業連携を図ることも、私どもの事業目標となります。



うさぎ年に生まれた方の守護神は、「三人寄れば文殊の知恵」で有名な文殊菩薩です。皆様方がうさぎ年の守護神にあやかって、お互い知恵を出し合い変化の波をうまく捉え躍動されることを心から希望しております。

最後になりましたが、皆様の会社の益々のご隆盛と皆様のご健勝を祈念して、年頭の挨拶にかえさせていただきます。

大晦日からの寒波で日本列島のお正月模様は様々だったようですが、皆様はいかがお過ごしでしたでしょうか。本年も最新の情報を皆様にお届けすべく、編集局一同頑張りますので、ご愛読下さいます様どうぞ宜しくお願い申し上げます。



編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>